

廃炉時代への提言 一福井・若狭の明日を考える



福井県内の原発のうち敦賀1号機・美浜1・2号機の廃炉が決まっています。今後は「廃炉解体」に向けた準備措置や作業が行われる予定です。そして、好むと好まざるに関わらず他の原発も次々に廃炉となってゆきます。

しかしながら、廃炉(廃止措置となった原発)の扱いは、政府の方針通り「廃炉解体」で本当によいのでしょうか。

原発問題に長年取り組んできた研究者が、一般の人たちにはよく知ら(さ)れていない廃炉に関わる諸問題を解き明かします。原発が建設される際には、県民的な議論がなされませんでした。廃炉措置についても、私たちが気づかないうちに酷いことが進んでいたということになってはならないと思います。

廃炉の時代の幕開けに、県民レベルで議論をはじめてゆくための第一歩です。原発はまだまだ必要だとお考えの方にとっても「廃炉」は共通の課題です。どうぞ、ご遠慮なくお出でください。

講演 廃炉原発の解体措置について 40分

大阪府立大学名誉教授 長澤啓行 さん

労働者の被曝は、解体作業は思惑通り順調に進むのか。解体ゴミはどこへ行くのか。そして行き場のない使用済み核燃料はこの廃炉解体の問題とどのようにからんでくるのか。「廃炉ビジネス」は期待できるか。廃炉措置には、遮蔽管理という方法もある。などなど

報告 原発立地市町の財政と地域経済の展望 越前市 山崎隆敏 さん 20分

日時 : 5月27日(金)午後7時～9時30

会場 : 鯖江市文化の館(図書館会議室)

主催: 若狭ネット (80年代に、脱原発を願う福井と関西の市民がボランティアで作ったネットワーク)

協力: サヨナラ原発福井ネットワーク